

2017年度 介護出前講座 基本研修（ベーシック）

現場を熟知する講師が行う現場目線の研修は、「モヤモヤしていたことがすっきりしました」「明日からさっそくやってみます」「初心にもどることができ元気になりました」と好評です。

新人職員の研修はもちろん、指導にあたるリーダーが新人指導力を磨く研修としても活用できる内容です。介護職に自信と誇りを取り戻すことを目指しています。

	テーマ	ねらい
1	<u>介護職のための接遇マナー</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ マナーの基本と心がまえ ・ 非言語メッセージの影響 ・ 病気や障害のある人とのかわり 	介護の仕事は、自分の存在を相手に受け入れてもらうことから始まります。挨拶や言葉づかいなどの基本的なマナーはもちろん、何らかの不自由を抱えた人と関わる場合の留意点についても学びます。
2	<u>高齢者介護 基本の“き”①</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期の生理的身体的特徴 ・ 老年期の疾患と障害 ・ 老年期の心理と支援のあり方 	人としての尊厳を守るとはどういうことなのか。人が老いて死んでゆくことについて思いをいたらせないまま介護の仕事につくと、ケアではなく作業になってしまいます。介護を仕事にするなら、自分の老人観や死生観を見つめましょう。
3	<u>高齢者介護 基本の“き”②</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立支援と介護 ・ 食事介護の基本 ・ 排泄介護の基本 ・ 入浴介護の基本 	業務手順や技術の伝達が優先されがちですが、「なぜ」「何のために」という根拠の理解がないままでは、利用者の尊厳を損ないかねません。見よう見まねによる習得は悪しき習慣を生み、職員のストレス要因にもなりかねません。
4	<u>高齢者施設における感染症対策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症の基礎知識 ・ 高齢者と感染症 ・ 標準予防対策 ・ 発生時の対応 	高齢者が集団で暮らす施設において感染症発生のリスクをゼロにすることは困難です。だからこそ、利用者の命と健康を守り、重症化とまん延を防ぐ知識と意識の統一が不可欠です。現場の不安と不要なストレスを解消します。
5	<u>高齢者施設における緊急時の対応</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身の特徴 ・ 緊急対応の可能性がある状況と疾患 ・ 応急処置と心肺蘇生 ・ マニュアル作成のポイント 	高齢者に起きうる事態とその対応についての基礎知識をベースに、日頃の観察ポイントを学びます。「いつもと違う」という気づきとチームケアが、高齢者の生命の危機を救います。

6	<u>高齢者の脱水症・熱中症対策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の心身の特徴 ・脱水症・熱中症の症状と対処 ・水分補給と食事の工夫 	脱水症・熱中症で命をおとす高齢者があつを絶ちません。その要因を心理的な特徴も含めて学びます。「すすめても水分をとってくれない」という現場の悩みを解決します。
7	<u>高齢者施設における食中毒対策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・主な食中毒とその特徴 ・予防の3原則 ・発生時の対応 	体力や抵抗力の低下した高齢者にとって、食中毒は生命にかかわる事態となりかねません。利用者の食に直接かかわる介護職に必要な基礎知識と現場での応用について学び、不安を解消します。
8	<u>事故予防と再発防止（リスク管理）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・事故対策の基本的な考え方 ・ヒヤリハット活動について ・事故発生時の対応 ・再発防止と人材育成 	基本的な安全規則を徹底しないまま、ヒヤリハットや事故報告書を収集しても事故は減りません。反省文や「見守り強化」では効果なしです。ヒヤリハットや事故の経験を個人やチームの成長に活かすという考え方を学びます。
9	<u>人にやさしい介助</u> <ul style="list-style-type: none"> ・腰痛予防の視点から ・褥瘡や拘縮予防の視点から ・自立支援の視点から ・人の自然な動きを活かす 	職員の腰痛予防対策は職場環境衛生マネジメントとして必要です。リスクを放置したり腰痛を自己責任にしたりするような職場に、職員は定着しません。介護者が腰痛になるような介助法は利用者にも大きなダメージを与えており、ケアの質が疑われることにもなります。
10	<u>介護とコンプライアンス</u> <ul style="list-style-type: none"> ・介護と職業倫理 ・個人情報と守秘義務 ・介護とプライバシー ・介護記録の意義 	介護事業所に勤務することの社会的な責任や、個人の暮らしやプライバシーに深くかかわる仕事に求められる職業倫理について、事例をもとに学びます。事業所の理念を再認識し、介護の仕事に誇りを持てるようになる内容です。
11	<u>認知症ケア 基本の“き”</u> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症とは ・認知症の人の健康を守る ・生活の場の3分類 ・3大介護でコミュニケーション 	「認知機能低下」について理解しないまま、認知症の人の言動を「問題視」する「問題介護」をしていませんか？ からだの不調を見逃したり、介護者の都合優先で「声かけ」をしたりしていないか、ふりかえりながら学びます。
12	<u>看取りのケア</u> <ul style="list-style-type: none"> ・医療モデルから生活モデルへ ・終末期のプロセスと介護 ・家族とのかかわり ・職員のふりかえり 	終末期を迎えても病院に移さないから、あるいは救急車を呼ばないから「看取りをしている」ことにはなりません。暮らしの中で逝くことを支えるケアについて、介護職と看護職の果たす役割について、家族支援も含めて学びます。

※研修のテーマや内容は事業所の現状に応じてアレンジします

2017年度 介護出前講座 ブラッシュアップ研修

職員のストレスケアや職員による虐待の防止が課題となっている今、現場に必要なのは、希望を持って方向性を示してくれるリーダーの存在です。

良き介護職が良きリーダーへと成長するために、ブラッシュアップしていく研修です。

働く人からも、利用者からも、選ばれる事業所へ。

	テーマと内容	ねらい
1	<u>職場のコミュニケーション</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報伝達でおきていること ・ 自分のパターンを知る ・ 伝え上手は聴き上手 	退職理由の上位にあがるのは「人間関係」ですが、コミュニケーションに関する誤解が悩みを大きくしている可能性もあります。自分と他人の違いに気づいて受け入れること、上手いかわないことを前提に学習することが重要です。
2	<u>認知症の人とのコミュニケーション</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非言語コミュニケーション ・ 共感を伝えるコミュニケーション ・ こんなときどうする？ 	認知症ケアの基本を学び、実践を積み重ねていくなかでぶつかるのは、介護者自身が自分でも気づきにくい他者とのかかわるときの癖や価値観です。実際の場面や事例を通して、気づきを築いていく内容です。
3	<u>高齢者施設における虐待防止</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者虐待防止法の概要 ・ 事故防止と身体拘束 ・ 虐待防止の基本的な考え方 ・ チームワークと職場環境 	職員による虐待の背景には、職員個人の資質や知識・技能不足のみならず、職場環境や風土にも問題があると思われれます。個人の問題にしない、グレーゾーンを逃げ場にしない、風通しの良い職場づくりを目指します。
4	<u>介護リーダー育成研修</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーに求められるもの ・ 他職種連携とチームワーク ・ 育ちあう勇気づけの心理学 ・ コミュニケーションスキルアップ ・ 職場改善のために ・ セルフケアのすすめ 	生まれながらにリーダーシップを身につけている人など滅多にいません。経験や意思に関係なくリーダーに任命される場合が多い介護現場の現状ですが、経緯や立場は様々であっても、それを受け入れてリーダーになることを自ら選んだ人がリーダーとして成長します。

※研修のテーマや内容は事業所の現状に応じてアレンジします